

洪水ハザードマップ認知度向上や有効活用等に関する取組状況

機関名等	①洪水ハザードマップの認知度向上や有効活用等を行うための課題等(対応に苦慮していること等) ※自由回答で記載願います	②洪水ハザードマップの認知度向上や有効活用等を行うための国への支援や協力等の要望 ※自由回答で記載願います	③洪水ハザードマップの周知方法				備考
			対象ハザードマップ	(a) 全戸配布	(b) 説明会	(c) インターネット公開	
秋田市	県管理河川について想定最大規模の浸水想定が公表されたことから、令和4年4月に水害ハザードマップを全戸配布し、各種団体へ説明会を実施したが、今後も避難意識を高めるため継続的な周知が必要である。	ハザードマップ作製等に対する財政支援	L2(最大)	○	○	○	・FM秋田「秋田市防災ナビ」による周知 ・市ホームページによる公開
			L1(計画)	-	-	-	
横手市	・新型コロナウイルス感染症の影響で減少していた防災講話が、以前の開催状況に戻つつあるものの、適切な避難行動に結びつけるための取り組みが必要。 R5年度→27回 399人	・ハザードマップ作製・更新に対する財政支援	L2(最大)	○	○	○	・市HP、コミュニティFM、SNS、サイマルテレビを活用 ・ウェブサイトを活用したハザードマップの公開(位置情報、避難所開設情報などを掲載)
			L1(計画)	-	-	-	
湯沢市	出前講座やマイ・タイムライン講習等を通じて、自分の住んでいる場所の災害リスクは承知しているものの、避難所であったり、浸水深などについては認知度が低いと感じる。 今後も引き続き、あらゆる機会を捉えて、適切な避難行動をとることができるよう、ハザードマップの活用等の普及を図っていく。	・積極的な情報発信及びハザードマップを活用したマイ・タイムラインの普及啓発 ・ハザードマップ作成にかかる手厚い財政的支援	L2(最大)	○	×	○	市SNSを通じて周知
			L1(計画)	-	-	-	
大仙市	自主防災組織版ハザードマップの作成について、各組織に対する効果的な作成指導と、必要性の認識を浸透させること。	ハザードマップの作成及び自主防災組織版ハザードマップ作成促進に係わる財政的支援	L2(最大)	○	×	○	自主防災組織版ハザードマップの作成 市ホームページにweb版ハザードマップの掲載
			L1(計画)	-	-	-	
仙北市	昨年度、全戸配布したが実際に役立ててもらえるよう日頃から周知を図る。	ハザードマップの更新に係る財政的支援の強化。	L2(最大)	-	-	-	ハザードマップの更新に伴い、各戸に配布する際に内容、利用方法を説明するとともに、各地域毎の防災マップの作成について助言を行う予定。
			L1(計画)	○	○	○	
美郷町	防災マップの日頃からの確認及び実際に役立てるための意識浸透。	十分な財政支援	L2(最大)	○	×	○	ハザードマップの全戸配布 町ホームページにハザードマップの掲載
			L1(計画)	-	-	-	
羽後町	令和2年3月に「羽後町防災ハザードマップ」を最新の情報に更新し、全戸配布した。 広報・町HP等で周知を行ってきたが、より効果的な周知方法を検討している。	浸水想定区域の見直しの際のハザードマップ更新に係る財政的支援。	L2(最大)	○	○	○	町内公民館・道の駅での掲示による周知。
			L1(計画)	-	-	-	
東成瀬村	平成30年2月に村版ハザードマップを作成して全戸配布しているが、実際にマップを必要とする災害が発生しておらず、必要性の認識を浸透させること。	災害についての積極的な広報活動。	L2(最大)	-	-	-	令和3年11月に東成瀬村自主防災組織研修会で洪水ハザードマップの活用を地区へ広報してもらえるよう周知した。
			L1(計画)	○	○	○	

洪水ハザードマップ認知度向上や有効活用等に関する取組状況

機関名等	①洪水ハザードマップの認知度向上や有効活用等を行うための課題等(対応に苦慮していること等) ※自由回答で記載願います	②洪水ハザードマップの認知度向上や有効活用等を行うための国等への支援や協力等の要望 ※自由回答で記載願います	③洪水ハザードマップの周知方法				備考	
			対象ハザードマップ	(a) 全戸配布	(b) 説明会	(c) インターネット公開		(d) その他(具体的な内容)
男鹿市	洪水ハザードマップは、作成していません。		L2(最大)	-	-	-		・公表済:津波
			L1(計画)	-	-	-		
潟上市	洪水ハザードマップの未作成	ハザードマップ作成に係るフォローアップ及び財政的な支援等	L2(最大)	-	-	-		・公表済:津波、土砂災害、ため池
			L1(計画)	-	-	-		
三種町	令和6年2月にWEB版のハザードマップを公開予定。 すでに全戸配布している冊子版(令和3年3月更新)を更新した内容となっている。(洪水=河川浸水想定に加え過去の浸水域を表記、津波=浸水想定→基準水位) より多くの住民に活用してもらえよう、説明会等の開催が必要と考えている。	今後、洪水浸水想定区域等の見直しにより、ハザードマップを更新する際に活用できる助成制度。	L2(最大)	○	×	○	令和6年2月より町HPIにリンク掲載する予定。	・公表済:津波、土砂災害、ため池
			L1(計画)	-	-	-		
五城目町	冊子版は全戸配布をしているが、変更点についての周知、更新作業が困難である。WEB版については、特に高齢者を対象としたPC、スマートフォン、タブレット端末の操作から学ぶ場づくりも必要と考えるが、現状対応できていない。	・ハザードマップ作製・更新に対する財政支援	L2(最大)	○	○	○	町担当者、自主防災組織育成リーダーによる出前講座等に活用している。 R3活動実績19回、延べ約400人参加	・公表済:津波、土砂災害
			L1(計画)					
八郎潟町	令和4年2月に「八郎潟町災害ハザードマップ」を更新し、全戸配布した。 洪水だけでなく、津波・土砂災害・ため池を含めた総合ハザードマップとなっている。 希望する方及び転入者には窓口で配布している。	・ハザードマップ作製・更新に対する財政支援	L2(最大)	○	×	○	HPIにより公表済。	・総合的な災害ハザードマップ(冊子)
			L1(計画)					
井川町	令和4年2月に井川町災害ハザードマップを作成し全戸配布とホームページ公開を行った。 ・災害時に有効活用出来るよう、普及啓発や認知度の向上策を検討している。	浸水想定区域の見直しの際のハザードマップ更新に係る財政的支援	L2(最大)	○	×	○	全戸配布、ホームページ公開	・今回作成したハザードマップでは、馬場目川浸水想定区域(想定最大規模)の他に、土砂災害・土石流、ため池、津波浸水想定区域等が記載されている。
			L1(計画)					
大潟村	洪水ハザードマップは、作成していません。		L2(最大)					
			L1(計画)					